

	課題分析	授業改善策
国語	○課題に対し、記述して答えることを苦手とする傾向があるため、語彙力を高める必要がある。いつも同じような語句や言い回しを使って書く生徒が多い。また、語句の意味を理解しないまま読み進めるため、言葉と言葉のつながりや文脈の把握を苦手とする生徒も多い。 ○課題を解決するための話し合いやコミュニケーションを苦手とする生徒がいる。進行の仕方や意見がわからず話し合えない場面があった。	○作文や小論文を書く際に、言い回しを紹介し活用させる。また、五感などに着目した表現による効果を読解させ、心情や場面が伝わるような書き方をさせてみる。意味を確認し、文脈上の意図を読み取る授業をする。辞書やタブレットの活用を図る。 ○話し合いの型を教え、司会台本を用意して、話し合いの経験をすることで、話し合いの流れやゴールを意識させる。
社会	○社会的事象に興味・関心をもち、専門的な用語を覚えようとする意欲はあるが学習の定着度に個人差がある。 ○社会的事象について、資料を根拠に自らの考えを構成し表現する力や、社会的事象を空間的な広がりや時間的な変化、相互の関連性に着目して思考し、表現する力が不十分である。	○基礎的・基本的な知識の定着を図るために、小テストを行い学習の定着を確認し、ワークや専門的な用語を覚えるような繰り返し学習の機会を設定する。 ○身近な学習教材を取り入れ課題解決型の授業を構成し、資料を根拠に自ら考え、表現する場面を設定する。また、タブレットを活用して意見を交換したり、作成物を相互評価したりする等、社会的事象を多面的・多角的に捉える活動を増やす。
数学	○「授業がわかりやすい」の項目において、全学年で肯定評価 85%以上を維持している。日常的な授業改善および創意工夫のある単元指導の成果が着実に定着していると捉えられる。 ○「家庭学習に意欲的に取り組んでいる」の項目において学年間の偏りが見られる。授業での学びを自発的な家庭学習や復習へと円滑に接続させるための導線設計(課題提示や振り返りの工夫等)を強化し、「主体的に学習に取り組む態度」の更なる育成を図る。 ○タブレット端末等を活用した共同学習の評価向上に向け、単なる端末利用にとどまらず、「協働の必然性」を生み出す課題設定および授業デザインの改善を推進する。これにより、対話を通して考えを深める「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す。	○スライドやデジタル教科書等を効果的に活用し、生徒の興味・関心と学習意欲を高める導入・視覚的指導を行う。また、生徒の理解度に応じて不足している教材や練習問題は生成 AI 等を活用して即座に補足作成し、一人ひとりの習熟度に合わせた個別最適な指導を展開する。 ○各クラスの学習定着状況を見極め、授業進度を柔軟に調節する。授業内に問題演習の時間を定期的かつ十分に確保するとともに、ペアワークやグループでの「解き方の説明合い(言語活動)」を取り入れることで、対話を通して思考を深め、基礎から応用までの確実な定着を図る。 ○理解度に応じた演習プリントや発展課題を網羅的に活用する。単なる解法暗記にとどまらず、筋道を立てて考えを表現・共有する言語活動を組み合わせることで、高度な思考力・判断力・表現力および応用力を伸ばす。

理科	○授業アンケートの「授業に一生懸命に取り組んでいる」の項目では、全学年で肯定的評価が 85%以上を維持しており、興味や関心をもって取り組もうとする生徒は多い。 しかし、基礎的な概念や原理・法則を理解した上で思考・判断を行い、科学的な視点で自然の事物や現象を捉える力が不足している。 ○科学的な視点で捉えて自らの考えを表現する力が不十分であり、表現力の育成を含めた指導の工夫が必要である。	○観察・実験等の体験的学習を充実させ、身近な自然現象と関連付けた説明の機会を設けることにより、科学的な視点で自然の事物・現象を捉える資質・能力を育成する。 ○観察や実験等から得られた結果を表やグラフ等を用いてレポートや、ICT 機器を活用してまとめたり、小グループ内での発表の機会を設定したりするなど、個人活動や班活動を充実させ、思考力、判断力及び表現力の育成を図る。
音楽	○曲想に応じた表現への意識は高まりつつあるものの、それを支える強弱やリズムなどの「音楽を形づくっている要素」の概念的理解や、表現への活用には依然として個人差が見られる。 ○音楽を聴いて感じ取ったことを共有する姿は見られるが、音楽を形づくっている要素を知覚・模索し、それを客観的な根拠として批評・言語化することに引き続き課題を残している。	○プリント学習による理論的理解と並行して、楽譜から強弱やリズムなどの「音楽を形づくっている要素」を読み取り、実際に音や表現で伝え合う活動を取り入れる。 ○自身の演奏の録音・録画の試聴や生徒同士の相互評価を行い、課題の明確化と改善策の検討を通して、曲想に応じた表現力の向上を図る。 ○聞き取ったり感じ取ったりしたことを全体で共有する活動や、模範的な鑑賞レポートの提示・共有を通し、要素を根拠とした具体的な批評文を記述する力を高める。
美術	○自分の制作活動を始めるとアイデアがスムーズに出てこない傾向が強い。 ○制作活動において問題が生じたとき、どうしたら良いかと自分の力で試行錯誤せず、すぐに答えを聞く傾向が強い。また、自分の作品制作における判断や決定を人に委ねる傾向も見られる。	○校舎内に生徒及び芸術作品を展示し、ICT 機器の活用による鑑賞を通し、興味関心の幅を広げるよう試みている。なるべく多くの芸術作品を鑑賞させ、アイデアを豊富に蓄えさせる。 ○生徒一人一人が自信をもって制作できるよう、制作手順の説明をよりわかりやすいものにし、制作時には、机間指導での適切な声かけを心掛け、生徒の声に耳を傾け、一人一人の活動と作品を尊重する機会を増やしていく。毎時、美術クイズなどを盛り込み、楽しみながら美術に対する興味・関心を高めていく。
保健体育	○積極的に運動に親しもうとする生徒が多いが、苦手意識が強く取り組みが消極的な生徒が一定数存在する。どの単位でも、運動の楽しさを味わわせ、主体的に取り組むための指導・支援が必要である。 ○運動、健康に関する知識・技能を活用することが不十分である。身に付けた知識を基に、自分の課題解決策を考えたり、取り組み方を工夫したりできる生徒が少ない。	○運動の楽しさを生徒自身が見つけていくような指導の工夫を行う。ルールや教具を工夫し、取り組み易くすることに加え、タブレット端末等を活用して、生徒自身がその種目の歴史や特性を調べるなど、運動への興味・関心を高め、主体的な取組へ繋がる指導を行う。 ○グループ学習やペア学習を取り入れ、生徒同士で課題提示やアドバイスができるよう工夫する。また、保健および体育理論の授業において、生成 AI を活用して作成した視覚効果の高いスライドを提示することで生徒の理解を促すとともに、スライド資料を配布して復習に活用させることで、知識・技能の確実な定着を図る。

技術・家庭	○生活の中の課題や既習事項を見出すことは定着してきたが、具体的な解決策や計画へ落とし込む段階に難しさがある。 ○実技や制作活動において、見通しをもった作業工程の組み立てや、学習内容を深める振り返りの質に生徒間の個人差が大きい。	○解決策を具体化するため、一人でアイデアを固めるだけでなく、グループで共有して意見を出し合う時間を設ける。 ○タブレットによる工程の提示や生活支援員との連携を通して、見通しをもって活動できるようにする。また、振り返りを書かせる際は、評価の質の基準をあらかじめ明確に伝える。
外国語（英語）	○積極的に授業に取り組む反面、翻訳ツールや生成AIなどを用いて文章を作成してしまうため、自分の言葉で文章を書くことや話すことが苦手な生徒が多い。 ○英文法など理解している生徒が増えているが、どのように活用するのか、どのように使われているのかなど具体的に考えることが苦手で、取り組むことが上手にできていない。	○AIを使う時間と使わない時間を区分し、まずは自力で考える時間を授業内に確保し、AIの使用範囲（文法チェックなど）をルール化し自律的な学びを促すツールとして活用させる。 ○目的・場面・状況を提示したコミュニケーション活動を充実させ、文法学習と関連付けて行う。文法の「形や意味の理解」にとどまらず、「実際に表現・活用できる知識」へと高める指導を展開する。